

徐福求薬（徐福不老不死の薬を求めて）

約 2200 年前に、秦の始皇帝は中国を統一し強大な権力を得た後、彼が望んだのは不老長寿の体を手に入れることでした。

しかし、世界のどこに不老不死の霊薬があるのでしょうか？徐福という人が始皇帝に申し出ました。「陛下、遙か東の海に三神山があり、一つは蓬莱、一つは方丈、もう一つ瀛洲と呼びます。そこに仙人と不老不死の霊薬があります。私は陛下のためにそこへ行き薬を求めて参ります。」始皇帝は徐福の話聞いて大喜びし、百工と童男童女三千人を乗せた大船団を徐福に与えました。

徐福は大船団を率いて東海に向かって出発しました。しかし、船団はいくら探しても神の山を見つけられず、不老不死の霊薬はもちろん見つかりませんでした。徐福は両手に何も持たずに戻れば、きっと始皇帝に殺されるに違いないと思いました。そして、船団は風光明媚な平原広沢に辿り着いた後、二度と中国へ戻りませんでした。

現在、徐福に関する伝承は日本各地に残されており、徐福の上陸地、徐福のお寺及び徐福のお墓等があります。例えば、佐賀市の徐福長寿館は、日本で最大の徐福日本渡来を記念する記念館で、徐福の足跡及び佐賀との縁を紹介するだけではなく、徐福由来のお土産も販売しています。徐福は不老不死の霊薬を求めるために来日したと同時に、文化・生産・技術を広げた人でもあります。彼は稲作技術を伝え、農具を生産し、医療技術を広げ、社会の進歩と発展に貢献しました。徐福が不老不死の霊薬を求めたことは、美しい伝説となり、今日に伝わっています。

